

2007年能登半島地震の緊急調査（地形・地質）

産業技術総合研究所

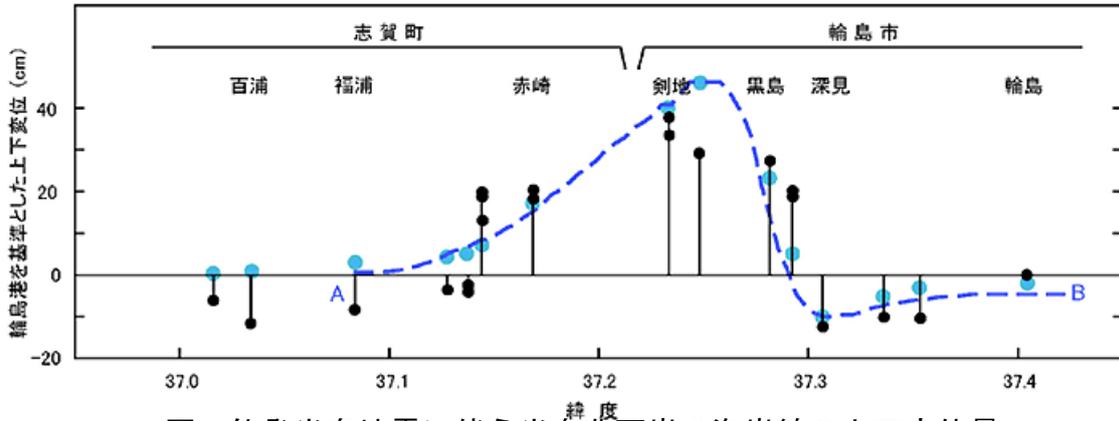


図 能登半島地震に伴う半島北西岸の海岸線の上下変位量

カキの分布上限を指標とし、輪島港に対する相対的な上下変位量を示す。各地点の変位量は、概ね5点での計測値の平均。青丸は下図に示す断層モデルによる各地点での計算値。青破線は下図に示す断層モデルによるA-B測線での計算値を投影。

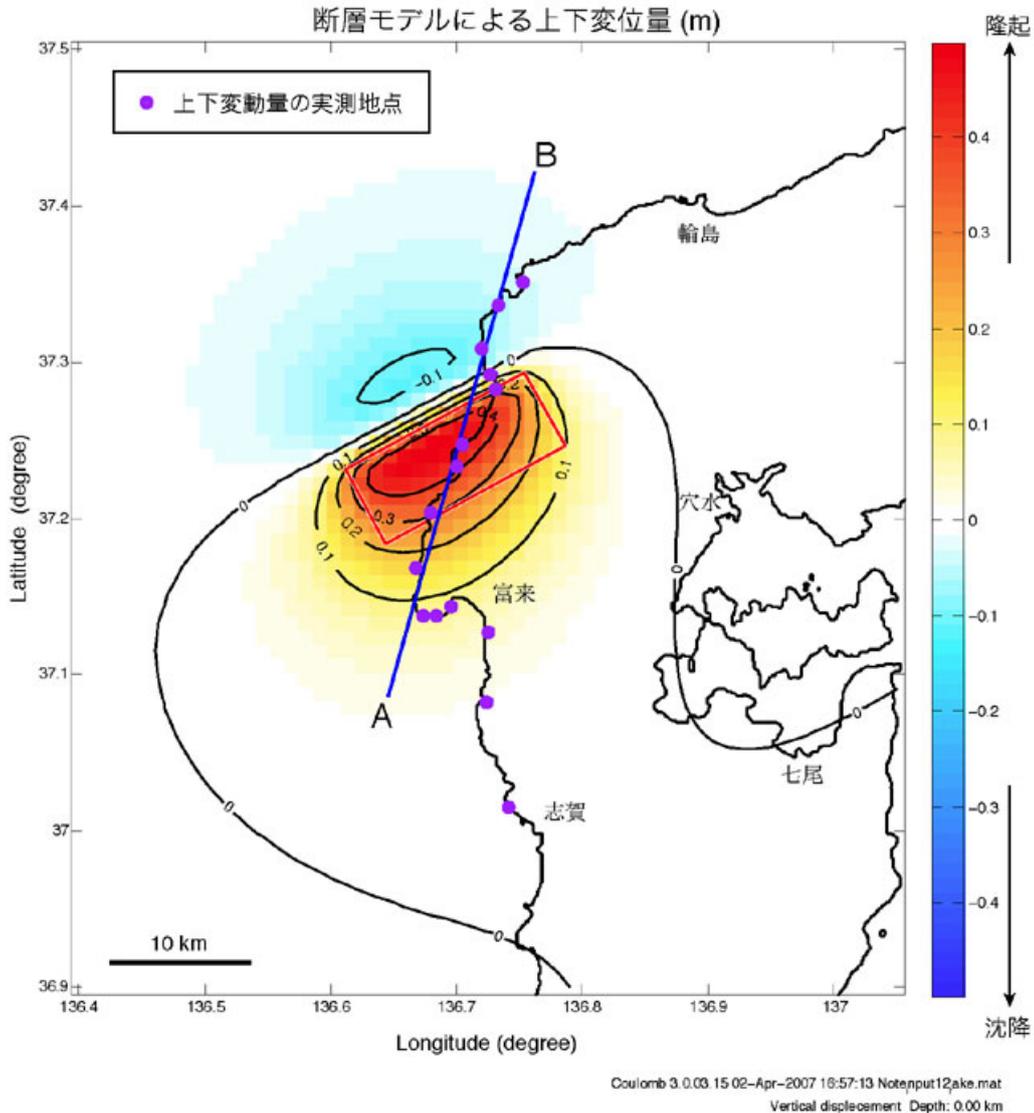


図 断層モデルによる上下変位量

用いた断層パラメータは、断層面の長さ15km、幅12km、上西端の位置東経136.61°北緯37.23°、上端の深さ2.0km、下端の深さ12.4km、走向58°、傾斜60°、レイク117°、すべり量1.2m (Mw=6.5)。赤線は断層端の地表投影位置を示す。A-B測線沿いの計算結果は上図を参照。